

「聖霊に導かれて」

ゴードン・リンゼイ

新入生募集中！

随時願書受付中！

cfnj.com

2026年9月・2027年1月・4月
各学期からの入学可。

- アルプスコース（牧師・リーダー養成）
- 1・2年本科コース（1学期だけの短期で学ぶ事も可能です）

「わたしは真実を言います。わたしが去って行くことは、あなたがたの益になるのです。去っていかなければあなた方のところに助け主がおいでになりません。でも行けばあなたがたの所に助け主を遣わします。」（ヨハネ16章7節）

無料体験入学
実施中！
平常授業のある3日間（3泊4日）

ベレーシート ～初めに記された終わり～
神田 満師

CFNJ NEWS

クライスト・フォー・ザ・ネーションズ・ジャパン聖書学院

2026年8月・9月号 NO.198

「聖霊に導かれて」

「わたしは真実を言います。わたしが去って行くことは、あなたがたの益になるのです。去っていかなければあなた方のところに助け主がおいでになりません。でも行けばあなたがたの所に助け主を遣わします。」

(ヨハネ 16 章 7 節)

ゴードン・リンゼイ

聖書教師・CFNI 聖書学院創立者



1. 教会の成長の原動力は聖霊の力

使徒の働きのみことばにあるように、最初から教会の原動力が聖霊にあったことは明らかです。

すべてを支配しておられる聖霊は、それぞれの状況に応じて、違った導きを与えてくださいます。聖霊に頼っていた初代教会は、その御霊の導きに完全に従いました。そういう訳で、他のクリスチャンと共に諸教会に散らされた、執事の一人であったピリポが、サマリヤで伝道することになったのです。食卓のことに仕える為選ばれたピリポが突然のように、伝道者になったのです。あるいは、彼の事を宣教師と呼んだほうが正しいでしょうか。

使徒の働き 8 章に書いてあるとおり、初代教会のクリスチャンは、「**みことばを宣べながら、巡り歩き**」しました。これは、当時の信者が一人残らず、自ら引き受けた責任です。資格などは、彼らにとっては、どうでも良いことでした。肝心な問題は、御霊

に満たされて、そして、あかしする教会を作ることでした。「しかし、彼らは迫害にあっていたのではないか」と誰かが言うかも知れません。そのとおりです。そして、その迫害の先頭に立っていたのは、偉大な宗教的指導者であった、タルソのサウロでした。

サウロは「教会を荒らし」ましたが、クリスチャンを迫害すればするほど、その活動の範囲が広まり、教会は聖霊の力によって成長していきました。教会の働きを止めさせることができなかったサウロは、間もなく、その迫害のしわざを主によって止めさせられました。当時のクリスチャンはきっと、「サウロの激しい迫害から解放してください！」と祈ったことでしょう。天国へ行ったら、その祈り方について彼らに聞いてみたいと思います。

彼らは、主がサウロを死なせることを願っていたかも知れません。サウロが救われるようにとは、祈らなかったでしょう。彼が実際に救われたと聞いても信じられなかったし、何年もの間、彼を受け入れることができなかったからです。

サウロは、ステパノを石打ちにした連中のかしらでした。ステパノも、執事から力強い伝道者に変えられた一人ですが、彼がそうになったのは、教会から選ばれたとか、任命されたからではありません。ステパノはキリストから奉仕を与えられ、父なる神に自分の信じる主の模範に従って、「主よ。この罪を彼らに負わせないでください。」(使徒7章60節)と祈りました。神はこの祈りに答えてくださって、タルソのサウロを赦し、ステパノが持っていた奉仕の重荷を、サウロに負わせられました。主はダマスコに行く途中のサウロを捕え、タルソのサウロという「古き人」が死んで、「使徒パウロ」という、「新しく造られた人」が御霊によって誕生したのです。

2. 宣教の拡大の原動力は聖霊の力

ダマスコにいる、余り知られていない一人のへりくだった弟子の助けを得て、パウロは聖霊を受けました。その時から、彼はもはや人に命令を出したりせず、聖霊から命令を受けるようになりました。あるときパウロは、自分が導いた人々の住む、自分が神のすばらしい祝福を経験した町に戻ることができませんでした。なぜでしょうか。そのことは「聖霊によって禁じられた」からです。又、別な方向に進もうとすると「御霊がそれをお許しにならなかった」のです。

伝道の作戦を考えられたのは、聖霊でした。聖霊は、全世界の人々が福音を聞くことを願い、すべての人々の上に働きかけられました。そして、その人々をキリストに導くために、ご自身にすべてを委ね、ご自身が神の栄光を表わして奇跡や力あるみわざを行なうことのできる人々を捜しておられたのです。

ここで、聖霊が地理的な隔てを取りこわ

されたことについて考えてみましょう。聖霊がコルネリオの家でユダヤ人と異邦人との間にあった、隔ての壁を打ちこわし、宣教の働きに大きな変化をもたらされました。そして福音は、アジアの国境の向こうにある国の人々に宣べ伝えられなければなりませんでした。そこでパウロは、あの有名な、「マケドニヤの召し」を受けました。この召しによって、パウロの働きの方角だけではなく、教会の方角、また歴史の方角までも変えられたのです。当時は、教会と海外宣教とは、別々には考えられていませんでした。教会員一人一人が、聖霊によって海外宣教に励んだのです。聖霊に満たされた教会が働き出すと、その働きはいつでも、教会中心であると同時に、海外宣教中心です。

パウロとシラスは、御霊の啓示を受けて、ヨーロッパにやって来ました。そこには、教会などは一つもありませんでした。幻に現われたマケドニヤの人でさえ、姿を見せなかったのです。しかし、パウロとシラスは、その人を捜すのに時間を費やしたりしないで、ただ最初に見つけた祈りのグループに福音を語り始めました。

間もなく彼らは逮捕され、背中をむちで打たれ、牢に入れられました。本当に御霊から啓示を受けたのかと、シラスがパウロに確認しているのを想像することができます。ここに来たのは本当に主の導きだったのだろうかと思ったことでしょう。しかし、聖霊に導かれたからと言って、問題とか試練に会わない、ということはありません。御霊は試練などを避けたりしないで、その真中を通るように、導いてくださるのです。

二人は不平を言ったり、神の導きや知恵を疑ったりせず、既に自由にされたかのように、真夜中に賛美し始めました。すると、地震が起こって、牢のとびらが開き、看守とその家族が救われたのです。神と共に働

くということは、何とすばらしいことでしょうか。

これらのことが起こった当時の世界は、全体において、墮落していました。これという道德律はすべて、無視されていました。人々の良心は、全く麻痺させられた状態でした。このような社会のただ中で、キリストの教会が誕生したのです。その教会の弟子たちは、お金があった訳でもないし、社会的な地位もなかったし、政府とか国の機関からの援助があった訳でもありません。

彼らは教養も能力も影響力もなく、人々からは軽蔑されていました。彼らは、礼拝するための建物さえ、ありませんでした。上に立つ権威に反対され、社会の風習によって妨げられ、社会の敵意を浴びた彼らは、非難され、悪口を言われ、迫害され、追放され、殺されました。しかし、初代教会のクリスチャンには、聖霊の力が宿っていたのです。この不思議な力をもつて、彼らは敵意に満ちた世に直面し、暗闇の力を相手にして戦いました。そして、打ち勝ったのです。どんなに控え目に計算しても、70年のうちに、イエス・キリストを信じる者が50万人も起こされました。要するに、聖霊の力によって、キリストの教会は70年もたたないうちにその会員数を4000倍に増した訳です。

3. 今も働かれる聖霊の力

使徒の働きに記録されたのと似たような出来事が、今世紀のペンテコステ運動の中で起こっています。最近(当時)、私が訪ねた、ある国のことについてお話ししましょう。

南米のブラジルには、世界中で最も大きいペンテコステ的な働きがあります。この働きは、50年ほど前に、2人のスイス系

のアメリカ人が神の召しを受けて、ブラジルに行ったことがきっかけでした。彼らは宣教団体に遣わされた訳ではありません。今日では非常識だと言われても仕方ありませんが、彼らはただ信仰によってブラジルに行き、イエス・キリストは救い主であり、いやし主であり、聖霊のバプテスマを授けてくださる方であり、また、やがて来られる王であると、人々に宣べ伝えました。間もなく、いやしの奇跡が起こりました。その奇跡を見た結果、多くのブラジルの人が救われました。救われた者はまた、他の人々に証しをし、人のために祈るようになりました。すると、更に奇跡が起こり、福音は国の奥地にまで宣べ伝えられていき、至る所で教会が生まれていったのです。現在(当時)では、教会の数が1500で、その会員数は25万人ほどです。

しかし、これがブラジルでの唯一のペンテコステ的な働きではありません。スイス系のアメリカ人が行ったのと同じ頃、シカゴ市のあるイタリア系のアメリカ人も、神から召しを受けました。彼は、スイス系のアメリカ人の事は何も知らずひとりで行きました。最初に1人の魂が救われ、そして1つの家族がキリストを受け入れ、それから1つの教会ができました。今日、このような教会が1500もあり、その会員数もまた、25万人です。最近の情報(初版1985年の時点)によると、ブラジルには、ペンテコステ的な信者は、200万人もいます。

4. 世界を変える原動力は聖霊の力

最後に申し上げたいことは、これです。私たちは、新約聖書に描かれている通りの聖霊を知らなければなりません。聖霊は、主が約束された方で、ご自分が去って行くことを益としてくださる助け主です。主は弟子たちにこう口われました。「**しかしわ**

たしは真実を言います。わたしが去って行くことは、あなたがたの益になるのです。去っていかなければあなた方のところに助け主がおいでになりません。でも行けばあなたがたの所に助け主を遣わします。」(ヨハネ 16 章 7 節) (新改訳 2017 年度版)

ペンテコステの日に、助け主は来られ、イエスのおっしゃった通りのことをしてくださいました。そこで、主が栄光をお受けになったことを知った弟子たちは、ヨハネの福音書 7 章 37 節～38 節にあるように、彼らの心の奥底から生ける水の川が流れ出るようになりました。彼らはまだ、性質においては、ただの人間でした。人間的な弱さもいろいろあったのですが、しかし、それにもかかわらず、超自然的な力が絶えず、彼らの弱さのうちに働いたのです。厳しい迫害の中にあっても、彼らは勝利者でした。神が彼らと共におられ、彼らのうちにおられました。事実、助け主が彼らのところに来られたのです。

これとは対照的に、今日のクリスチャン

の聖霊に関する教理も経験も、ほとんど全部、あいまいな、漠然としたものです。もし、聖霊のバプテスマの必要性を否定したり、その経験を軽視すれば、そうなるのは当然であると言えます。今日の教会の指導者たちは、真実で、素晴らしいことを書いたり、語ったりしていますが、教会の第 1 の問題がその会員たちの力のなさであるとするならば、会員たちがリバイバルされない限り、大したことは起こらないでしょう。私たちが必要としているのは、教会員の一人一人が救われ、それから聖霊に満たされ、そして伝道者になることです。そうやって初めて、初代教会のように、世界が一変させられるのです。

※ゴードン・リンゼイ師は 1973 年に召天されていますので、世界宣教の実例などの説明についても、内容をそのまま掲載しました。

このメッセージは小冊子、「聖霊のバプテスマを受けるには」からの引用です。ご希望の方には無料でお送りいたしますので、お申込みはメールかお電話で、学院事務局迄お知らせください。

この
危急のとき!

愛するご支援者の皆様、読者の皆様に、**緊急の、お知らせと、お願いがあります!**

CFNJ は今、存続の危機に直面しています! この 42 年間、多くの方々の愛と祈り、捧げ物によって、ここまで守られ支えられ、学院の働きを続けてくることができました。

しかし、あのコロナ禍以来、学生数が急減して、今在校生は全部で 7 名になりました。素晴らしい 7 名の学生たちを心から愛し、その存在を感謝しています。

しかし、この 7 名のうち 5 名は来春 3 月には卒業予定です。このままいくと 43 年目の 4 月には、2 名の在校生が残るのみという、危機的状況となります。どんなに立派な施設があり、献身的な講師やスタッフがいたとしても、未来の働き人となる学生がいなくては、この働きは無意味です。

CFNJ の本来の使命は主の弟子を育成し、諸教会を祝福し、世に遣わすことです。どうか、主を愛し、飢え乾いた心を持った未来の働き人、学生が CFNJ に入学するために、お祈りと協力をお願いいたします。あなたの周りにいる人々(老若男女を問わず)に、CFNJ を紹介してください。日本中に、また海外にも、主のために生きたい、用いられたいと願っている兄弟姉妹がたくさんいると信じます。

ぜひ私たちと心をつなげて祈り協力してください。

9 月から始まる 2026 年度 2 学期に、新入生が 10 名与えられるように、そして来年 1 月から始まる 3 学期にも 10 名の新入生が、さらに新年度となる 2027 年度 4 月には 25 名の新入生が与えられるように。神様が与えてくださった素晴らしい施設、独身寮や家族寮を含めて、そこが学生でいっぱいになるように、今私たちは本気で願い祈っています。

長らく学院の運営のために多額の献金を送り続けてくださった創立者のグリコ夫妻のご家族からなるキングダムファンデーションからの送金も、新年度からは半額になります。しかし、学院の働きを思い、新たに支援したいと申し出てくださる支援者も与えられつつあります。問題はお金ではありません。仮に学院が 50 名の学生で満ちれば、運営的にも自立していくことができるようになるのです。

お一人お一人の上に、これからも主の恵みと慈しみが追いかけてきますように。今も生きて働いておられる私たちの主、イエスキリストの御名により、祝福を宣言してお祈りいたします。シャローム

CFNJ 聖書学院 鍛治川利文 紀子

～初めに記された終わり～

ベレーシート

わたしは後のことを初めから告げ、まだなされていないことを昔から告げ、『わたしの計画は成就し、わたしの望むことをすべて成し遂げる』と言う（イザヤ書46章10節）



神田 満師

北海道砂川市の空知太栄光キリスト教会牧師。CFNJ 聖書学院卒。

聖書とは、後のこと、すなわち世の終わりに起こることを初めから告げ、預言しており、それは神の望んでおられる、すべて必ず成し遂げられる神のご計画です。神はそれを世の初めから、その終わりに成就、完成させることを予め告げておられるのです。

ではその終わりに起こる神のご計画とは一体どのようなものなのか、それを聖書の初めに記された御言葉から解き明かしてみたいと思います。

1. 「初めに」（創世記1章1節）

「初めに」この言葉から聖書は書き始められました。これを原語であるヘブル語で「ベレーシート」といいます。文法的には「～によって、～のうちに」という意味の前置詞で、「ベ」と「初め、最初」という意味の名詞と、「レーシート」からなる言葉で、直訳すると「初めによって」となります。

このレーシートは、単なる初めというだけでなく「初穂」とも訳される言葉で、1コリント15章で、パウロはキリストを指してこれを「初穂」レーシートと呼んでいます。

「しかし、今やキリストは、眠った者の初穂として死者の中からよみがえられました。」（1コリント人への手紙15章20節）

「しかし、それぞれに順序があります。まず初穂であるキリスト、次にその来臨のときにキリストに属している人たちです。」（1コリント人への手紙15章20節）

このようにパウロは「よみがえり」と「来臨（再臨）」に関する記述において、キリストをその「初穂」と呼んでおり、この意味を、創世記1章1節の「初めによって」とも訳せるベレーシートに結びつけるならば、それは「キリストのよみがえりとその再臨によって」という意味と捉えることができます。

つまり神は聖書のその初めに、御子イエスの「死」と「復活」、そして、「昇天」を経て、やがて「再臨」という「神のご計画」を指し示しておられます。それはまさに「わたしは後のことを初めから告げ」イザヤ書46章10節という御言葉が真実であることを証明しています。

2. ヘブル語に隠されたメッセージ

聖書は、初めヘブル語で記されました。それは22の象形文字からなり、その一つひとつがメッセージを持っています。

אבגדהוזחטיכלמנסעפצקרשת

その中から神は、「ベレーシート」「初めに」として5つを選ばれ、このように記されました。

בראשית

ベート (ב)、レーシュ (ר)、アーレフ (א)、シーン (ש)、ヨッド (י)、ターヴ(ת) のこれら5つのヘブル文字に秘められたそれぞれの意味を見てみますと「後のこと」世の終わりに成し遂げられる神のご計画がさらに詳しく具体的に見えてきます。

ב

ベート (ב) というこの文字は「家、国」を表す文字です。ベレーシート (בראשית) の頭文字ともなっていることから、聖書全体はまずこのベートから書き始められたということになり、ここに「家、国」を何よりも第一とされる「神の御心」、「み旨」、「目的」が表されています。

「まず神の国と神の義とを求めなさい。」(マタイ6章33節)とイエスは言われましたが、誰よりも神ご自身が神の国、御国を第一に求めておられるということが、聖書がこのベートから書き始められたという事実には表されています。

ר

次にレーシュ (ר) というこの文字は人の頭髪を象った文字で「頭(かしら)、首長、王」を意味しています。「神の国」とは民主主義や共産主義の国家ではなく、王が民を治める王政国家、王国です。

その御国の王とはもちろん「王の王、主の主」と呼ばれる御子イエス・キリスト、ヘブル語でイエシュア・メシアです。

א

アーレフ (א) は英文字の「A」にあたる、第一の文字ですが、「千」という数を意味し、「一日は千日にまさる。」(詩篇84篇10節)という神の家を指し、「千年、千代」というその「時間」、「時代の長さ」と「幾千幾万」というような無限に近い数の多さを表す文字です。千年王国とも呼ばれるイエシュアの御国が末永く豊かに繁栄することを表しています。またこの文字をよく見てみますと、釘が二つの手を刺し通している形に見え、イエシュアの十字架の贖いを表す文字であるとも見て取れます。



ש

シーン (ש) は人の歯を象った文字ですが、その色、その白さから「きよめ、聖とされる」ことを意味する文字で、また焼き尽くす火を象った文字でもありますが、火によって精錬、純化されることから同様の意味になります。それは前のアーレフとも結びついてイエシュアの十字架の血によってきよめられる人、聖なる国民を表す文字です。ちなみに黙示録19章8節でキリストの「花嫁は、輝くきよい亜麻布をまとう」とありますが、この「亜麻布」のことをヘブル語で「シェーシュ」といい、その綴り(שש)はこのように、シーンを二つ合わせたものとなっています。

י

ヨッド (י) は、ヘブル文字の中で最も小さな文字ですが、それは先ほどの「アーレフ」の文字の中にもあった神の「手」、イエシュアの「手」を表しています。

そしてそれは、日本語の句読点(、)のような下ではなく、上の方、空中にあるもののように表記され、人を空中に引き上げる手、すなわち「天に携挙するという神の御手の業」を表し、以下の預言を指し示します。

「すなわち、号令と御使いのかしらの声と

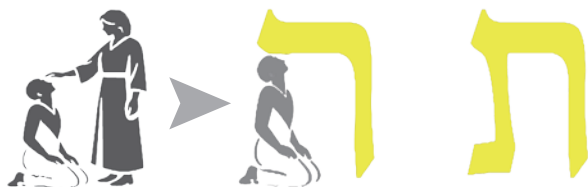
ラッパの響きとともに、主ご自身が天から下って来られます。そしてまず、キリストにある死者がよみがえり、それから、生き残っている私たちが、彼らと一緒に雲に包まれて引き上げられ、空中で主と会うのです。こうして私たちは、いつまでも主とともにいることとなります。」(1テサロニケ人への手紙4章16節・17節)

「その後、私は見た。すると見よ。すべての国民、部族、民族、言語から、だれも数えきれないほどの大勢の群衆が御座の前と子羊の前に立ち、白い衣を身にまとい、手になつめ椰子の枝を持っていた。」(黙示録7章9節)

神の子羊とも呼ばれる主イエス・キリスト、イエシュア・メシアを信じるすべての国々の民はやがてこのように天の御座の前にまで引き上げられるという偉大なご計画がこの最も小さな文字ヨッドには込められているのです。ちなみにマタイの5章18節でイエシュアが「律法の一点一画も消え去ることなくすべて実現する」と言っておられるその一点とはこのヨッドを指し、ここに秘められた上記の預言の成就を指しているのです。



ベレーシートという言葉においても、22のヘブル文字においても終わり、最後の文字となるターヴ(ת)は「しるし、証印」を意味する文字で、先ほど述べた「王」を意味するレーシュの御前にひざまずいて顔を天に向けた人の額にしるしが付けられるような絵を見ることができます。そしてそれは終わりの日にしるしをつけられる選びの民、イスラエルの残りの者を指し示しています。



「主は彼にこう言われた。「都の中、エルサレムの中を行き巡り、ここで行われているすべての忌み嫌うべきことを嘆き悲しんでいる人々の額に、しるしをつけよ。」(エゼキエル書9章4節)

この預言を理解するには預言者ダニエルが記し、イエシュアもこれを引用して預言され

た「荒らす忌まわしいものが聖なる所に立っているのを見たら」(マタイ24章15節)という御言葉をよく理解する必要があります。やがてエルサレムに再建される神殿(第三神殿)に、黙示録の獣とも呼ばれる反キリストが入り、自らを神と称してこれを奪い、これをけがすその時、それを見て「ここで行われているすべての忌み嫌うべきことを嘆き悲しんでいる人々の額に、しるし」がつけられます。このしるしをつけられた人々はエルサレムから「逃げなさい」(マタイ24章16節)という預言に従い、反キリストの手から逃れるため「逃れの者」または「残りの者」と呼ばれます。その数はイスラエルの12部族から各12,000人ずつ、合わせて144,000人であると預言されています。

「私は、印を押された者たちの数を耳にした。それは十四万四千人で、イスラエルの子らのあらゆる部族の者が印を押されていた。」(ヨハネの黙示録7章4節)

このイスラエルの「逃れの者、残りの者」に押される「神の印、しるし」とは何でしょうか。その正体は、「神の霊、聖霊」(エペソ1章13節・4章30節)で、この「聖霊によるのであれば、だれも『イエスは主』と言うことはできない」(1コリント12章3節)とあるように、イエスはキリスト、イエシュアは神の御子、王なるメシアであることを人に信じさせるものです。

今日においても、未だ民族的にはイエシュアを信じないユダヤ人、イスラエルの民の中から、やがて聖霊の証印を押され、すなわち聖霊を注がれ、イエシュアを信じるようになる者たちが起こされることが以下に預言されています。

「わたしは、ダビデの家とエルサレムの住民の上に、恵みと嘆願の霊を注ぐ。彼らは、自分たちが突き刺した者、わたしを仰ぎ見て、ひとり子を失って嘆くかのように、その者のために嘆き、長子を失って激しく泣くかのように、その者のために激しく泣く。」(ゼカリヤ書12章10節)

またイエシュアはこの聖霊を、「真理の御霊」と呼ばれ、その働きについて次のように説明しておられます。

「しかし、その方、すなわち真理の御霊が来ると、あなたがたをすべての真理に導いてくださいます。御霊は自分から語るのではなく、聞いたことをすべて語り、これから起こることをあなたがたに伝えてくださいます。」(ヨハネの福音書 16 章 13 節)

「これから起こること」、つまり、終わりの日に成し遂げようとしておられることを伝えること、これが「しるし、印」と呼ばれる聖霊の働きであり、イスラエルの「**逃れの者、残りの者**」はただ逃げる、生き残るだけではなく、全世界に福音を宣べ伝えるようになります。こう預言されているとおりです。

「わたしは彼らの中にしるしを置き、彼らのうちの逃れた者たちを諸国に遣わす。すなわち、タルシシュ、プル、弓を引く者ルデ、トバル、ヤワン、そして、わたしのうわさを聞いたことも、わたしの栄光を見たこともない遠い島々に。彼らはわたしの栄光を諸国の民に告げ知らせる。」(イザヤ 66 章 19 節)

この聖霊に導かれて、全世界に福音を宣べ伝える、というこの姿は、まるで、今日の私たち教会のようです。先ほどのヨッドで説明したように、イエシュアを信じる者はみな、つまり教会は、天に引き上げられます。その教会に代わって、福音を宣べ伝えるのがこのイスラエルの「**逃れの者、残りの者**」です。

つまり教会は、終わりの日の、彼らの存在と働きを指し示す、予表「型」となっているのです。つまり、マタイ 24 章 14 節の個所で、イエシュアが言われた「**御国のこの福音は全世界に宣べ伝えられて、すべての民族に証しされ、それから終わりが来ます。**」という預言は、究極的には、このイスラエルの「**逃れの者、残りの者**」の行う世の終わりの宣教の働きを指しているのです。

説明が長くなりましたが、これがベレーシートの最後の文字ターヴに秘められた、神の選びの民イスラエルの「**逃れの者、残りの者**」です。

以上の内容をまとめますとこのようになります。

ベレーシート (בראשית) 「初めに」		
文字	意味	神のご計画
ベート (ב)	家・国	神は御国を、この地に建てられる。
レーシュ (ר)	頭・首長・王	それは王が治める王国で、イエシュアがその王である。
アーレフ (א)	千代・幾千	その御国は、千年王国と呼ばれ、大いに栄える。
シーン (ש)	歯・火	イエシュアの血によってきよめられた者が入る、または大きな患難という火によって精錬された者が入る。
ヨッド (י)	手	それはイエシュアを信じ、天に引き上げられる国々の民である。
ターヴ (ו)	しるし・印	それは印を押され、地に生き残るイスラエルの残りの者である。

このように、イエシュアを信じ、これを王とする「贖われた民」、「聖なる国民」とされるイスラエルと異邦人、これらによって形成される「千年王国」、そのような神のご計画が、ベレーシートというヘブル語には表されているのです。

日本語ではただ「初めに」と訳されてしまっただけの言葉が、ヘブル語の視点では「神の御心」、「み旨」、「ご計画」を表す、まさに「**わたしは後のことを初めから告げ、まだなされていないことを昔から告げ、『わたしの計画は成就し、わたしの望むことをすべて成し遂げる』**」(イザヤ 46 書 10 節) と言う」と記されているとおりなのです。

今日、私たち教会は、聖書の御言葉を自分の人生、日々の生活の中だけに当てはめ、これをより良く、成功的なものにするための方法、道具として用いてしまいがちです。しかし本来、聖書は、預言書であり、このように「**壮大な神のご計画**」を指し示しているものなのです。

神はそれをまさに「初めから」記しておられ、解き明かされるべきものとして秘めておられるのです。

「**事を隠すのは神の誉れ。事を探るのは王たちの誉れ。**」(箴言 25 章 2 節)



卒・修了式



■去る、2026年3月6日（金）、午前10時から、2年コース卒業の中澤美樹姉妹と、1年コース修了の碓井咲希姉妹の卒業・修了式が執り行われました。この日、学院顧問である有賀喜一師から、黙示録に於けるイエスキリストをお迎えする信仰について、熱く語られ、この日、旅立つ兩名を励まし送り出すことが出来ました。これからの主にある働きの為にお祈りをよろしくお願い致します。



中澤 美樹
(2年コース卒業)

■ハレルヤ！この2年間、CFNJ 聖書学院で学ぶことができたことを主に心から感謝します。「イエス様漬けの生活ができる」と聞いたことが、入学を決めた大きな理由でしたが、まさにその通りの恵みの時でした。どんな時も共にいてくださる慰め主、いのちであるイエス様と歩む幸いを深く知ることができました。これからも主のご栄光のために、いのちの祝福を流す管として用いていただけるようお願いしています。支えてくださった学院の皆様、先生方、教会の皆様、両親、そして主に、心から感謝いたします。



碓井 咲希
(1年コース修了)

■この度無事に修了を迎えることができました。学院生活、たくさん辛いこともありましたが、神様にすぎる時間となりました。その中で神様の愛をさらに体験できたことは恵みです。また奉仕教会をはじめ、多くの霊的な家族ができたことも感謝です。わたしの想像を遥かに超えた素晴らしいイエス様に栄光をお返します！



予告

2026年度、CFNJ 海外アウトリーチ！

「全世界に出て行き、すべての造られた者に、福音を宣べ伝えなさい。」マルコ16章15節

期 間 2026年12月16日（水）～23日（水）迄（7泊8日）

場 所 カンボジア（カンボジア王国） プノンベン市

費 用 20万円（一人分・交通費、宿泊、食費他込み）
全ての必要が満たされるようにお祈りください。





祝・入学式



■去る、2026年4月13日（月）、午前10時より、1年コース2名、アルプスコース（3年目）3名、合計5名を迎えて、2026年度の入学式が執り行われました。この日、アメリカから創立以来からの支援団体である、キングダムファンデーション代表の「ジェームス・アーサー氏」を迎えて、新入生に励ましの言葉が語られました。アーサー氏は、今学期から始まる、「神の方法でビジネスを行う」の課目の中から、この世に於いて神様のミニストーリーを行っていく様々な方法と心構え。更に、今年、北海道の開拓から150年目を迎えた、ウィリアム・クラーク博士の業績と信仰から、「ボーイズビーアンビシャス」の精神について語られました。これから始まる新たな学びの為に祈りを願います。



■神様についてもっと深く学びたいと思い、この学校に入りました。また、日本語や日本の文化についてももっと知りたいと思っています。特に、学校が神様の御言葉や礼拝、祈りを大切にしているところにとても魅力を感じました。先生方や学生みなさんも温かく、毎日たくさん励まされています。この学校を通して、日本に神様の祝福がさらに広がっていくことを楽しみにしています。



オリバー・ライトケーブ
(1年生)(オーストリア)



■この春から CFNJ 聖書学校に入学できたこと感謝します。神様のことをもっと深く知りたい、もっと神様の愛とはどのようなものなのかを知りたいと思い入学しました。あっという間に時は過ぎて、一学期を終えそうです。共同生活が最高に楽しく、神様から愛され、なにより学院の仲間たちに愛されているなど実感しています。私は、音楽の賜物を神様から大いに与えられていることを、確信しています。もっと日本で天が開かれるような礼拝をしたいと願っています。「息のあるものはみな主をほめたたえよ。ハレルヤ。」(詩篇 150 篇 6 節)「さて、主にある囚人の私はあなたがたに勤めます。あなたがたは、召されたその召しにふさわしく歩みなさい。」召されたその召しにふさわしく、熱く、賛美と祈りを持って捧げます。



金澤 輝 (ひかる)
(1年生) (北海道)



岩村 一義 (富山県)
(アルプス・3年目)



宮内 仰 (京都府)
(アルプス・3年目)



木藤 穰 (愛知県)
(アルプス・3年目)